

2025年度報告書



シャンティ国際
ボランティア会
Shanti Volunteer Assoc.

令和6年
能登半島地震
活動報告書



2024年1月1日16時10分、石川県能登地方の深さ16kmを震源とするマグニチュード7.6の地震が発生しました。また、9月21日には奥能登地方は豪雨に襲われ、1年に2度の大きな災害の被害に見舞われました。

能登半島地震の発災から2年がたち、倒壊した建物の多くでは解体作業が完了し、地域は少しずつ復興へと歩みを進めています。一方で、今なお多くの方が仮住まいでの生活を余儀なくされ、被災した自宅の修繕や災害公営住宅への入居を待っています。そうした中、被災地域では急速な人口減少が課題となっています。

シャンティは、復興の道なりに寄り添い、現地での支援活動を続けています。

地震による被害状況(2026年3月31日時点、石川県発表)

死者:711人(うち災害関連死483人)

負傷者:1,990人

住家被害:116,612棟

豪雨による被害状況(2026年1月30日時点、石川県発表)

死者:21人(うち、災害関連死5人)

負傷者:68人

住家被害:1,902棟



ごあいさつ

令和6年、年明けの能登半島地震は、平成19年能登半島地震から17年が過ぎ、ようやく立ち直ろうとする機運をまさに打ち砕くものでした。そこに9月の豪雨災害が追い打ちをかけることになり、言葉では言い表せない困難を背負う人々の苦悩は、はかり知れません。シャンティは発災直後より輪島市門前町に拠点を設け、避難所支援など状況に寄り添った対応を継続してきました。詳しくは本報告をご覧ください。

現在、市内のあちこちに残された倒壊家屋、新たに建設された仮設団地とさら地となった輪島朝市を見るにつけ、災害の大きさを改めて実感します。こうした生活基盤の激変に直面し、新たな人間関係

を構築できず、孤立感を深める人々がいることも事実です。

シャンティは、こうした課題に対応すべく2024年7月より移動図書館活動を輪島市図書館と協力して運行してきました。これと同時に巡回先の集会所などではお茶飲みコーナーを設け、居場所づくりも心がけ、「話ができて少し楽になりました」という利用者のみなさんの声も聞きました。この活動は今後も継続し、市民の皆さまにとって少しでも心の支えになればこれに過ぎる喜びはありません。

会長

若林恭英



移動図書館車両の寄贈

シャンティは震災以降、輪島市門前町で、避難所の運営支援、炊き出しや足湯活動など多様な支援活動に取り組んできました。こうした緊急期の支援を経て、日常に戻るきっかけや交流づくりを目的に、2025年7月より輪島市図書館と連携し、仮設住宅や公民館を巡回する移動図書館活動を実施しています。

2025年12月16日、復興支援の一環として、移動図書館車両一式を輪島市図書館へ寄贈する贈呈式を輪島市で実施しました。移動図書館車両での巡回を通して、本との出会いに加えて、人と人が自然に顔を合わせ、交流する場として、子どもから高齢者まで、幅広い世代の心の支えとなることが期待されます。

車両贈呈式の様子

2025年12月16日、輪島市役所内にて移動図書館車両を輪島市図書館へ寄贈する贈呈式を行いました。当日は、輪島市教育委員会やシャンティの会長、理事が参加しました。贈呈式では、シャンティ会長の若林恭英より小川正輪島市教育長へ目録を手渡ししました。小川教育長からは、「移動図書館活動は図書へのアクセス回復だけでなく、居場所や心の癒し、さらには生活再建のヒントになります」と大きな期待を寄せていただきました。

若林会長からは、改めて被災された方々へお見舞いの言葉を述べると

ともに「永い年月を要する復興において、図書館は人々の心に活力を与える存在です。これまでの被災地支援の経験を活かし、移動図書館を通じて居場所づくりも大切にしながら、今後も引き続き伴走していきたい」と語り、移動図書館車両が地域の中で大いに活用されることへの期待を示しました。



移動図書館車両のデザインが決まるまで

震災で被害を受けた輪島市図書館は、商業施設の一角を活用し、仮設図書館として再開しました。その際、金沢美術工芸大学より書架の寄贈を受けました。こうしたご縁もあり、公共性の高いデザインに取り組んできた同大学へ、移動図書館車両の外装デザイン制作を依頼することになりました。各大学の学生からデザイン案が寄せられ、最終候補9作品の中から採用デザインを決定しました。

デザインのコンセプト

デザインを選ぶにあたっては、移動図書館の利用者が子どもから高齢の方まで幅広いことを踏まえ、ひと目で「図書館が来た」とわかること、そして「輪島らしさ」を大切にしました。デザインを考案した学生の中には実際に能登を訪れ、そこで目にした風景をモチーフにした方もおり、その想いに心を動かされました。

今回選ばれたデザインは、羽ばたく本のモチーフから「本が持つ力強さ」、イチョウ型の形から能登の豊かな山と海の風景が思い浮かびます。この移動図書館車が輪島の町に寄り添う存在になると感じています。



デザインの制作者からのコメント

本デザインは、輪島市の空と海をモチーフにしながら、見たときに「図書館だ」とすぐ伝わることを大切にデザインしました。本の色には輪島市の鳥であるトキの朱色を重ね、輪島らしさをさりげなく込めています。親しみやすく楽しい印象を通して、本と人、人から人へとつながっていくきっかけになることを願っています。この移動図書館が、多くの人に本を届け、日常に笑顔を生み出す存在になればうれしいです。

金沢美術工芸大学3年生
山崎ゆめさん



移動図書館活動の意義について

移動図書館の利用者には本を読む人、読まない人どちらも来られるんですけど、移動図書館活動を通じて気晴らしになってくれればいいなと思っています。仮設住宅は今まで住んでいたお隣さんとそのまま移住するわけではなく、いろんな地域の人が入ってきてコミュニティがガラッと変わるんですね。仮設住宅にいとやることがなくて皆さん家から出てこなくなるとか、夜になると地震やこれからのことを考えて寝れないと話さ方がいっぱいいらっしゃいました。仮設住宅で一緒に生活しているんだけれども全然知らない方向士が移動図書館を通じて集まり、そこでお友達になったというお話を聞いて、本当に良かったと思いました。本は借りなくても、ただ出てきてみんなで話して友だちになって、コミュニティにつながったらいいですね。

*2024年7月から移動図書館活動を共に行っている権野さんへのインタビューを2026年2月17日に行いました。本記事はそのインタビューの内容を抜粋し、編集しました。



輪島市教育委員会 生涯学習文化課
輪島市立図書館 兼 門前図書館 主査
権野 勝彦さん



移動図書館
活動地の地図

利用者のみなさんの声

移動図書館活動「ほんねんて！ブックカフェ」の記録と

2025年は最大17カ所(避難所3カ所、公民館7カ所、集会所2カ所、仮設住宅5カ所)で移動図書館の巡回を実施しました。

人気著者として、五木寛之、鎌田寛、林真理子、瀬戸内寂聴の作品が多く手に取られています。共通点として人生経験に寄り添う生き方をテーマにしたエッセイや小説が多いです。読みやすく、語りかけるような文章に「読んでみると気持ちが落ち着く」「自分の人生と重ねて読める」といった声が聞かれます。生活再建の中で、心を整える時間として大切な役割を果たしていることがうかがえます。

人気なジャンルとして、料理、手芸、園芸、大活字、川柳が挙げられます。料理、手芸、園芸など日常の楽しみを取り戻すために本が活用されていることがわかります。利用者の方々の希望に合わせて取りやすい本も多く選書されていることが特徴です。

運行実績(2025年1月1日～12月31日)

運行回数:158回
利用者数:1,185人
貸出冊数:2,020冊
図書館新規登録:70人

1月 2025年 — 発災から1年

待ってました！図書館！楽しみにしてた！（60代女性）

9月ぶりやね。あの（奥能登豪雨）後、大変やった。久しぶりに日常が戻ってきたように感じる。（70代女性）

正直、人と話す機会がない。ここに来たら誰かと話せるかと思っただけ。（50代男性）

今は自宅を直しながら一人で生活している。

年末に二次避難所から帰ってきた。これまで6カ所の二次避難所を転々としてきた。

たかが本と言われるかもしれないけど、本は生涯の宝物になる。前借りた本も、この年になっても初めて知ることやいろんな言葉に出会えておもしろかった。（70代女性）



避難所の外で開催した移動図書館

2月

氾濫した久手川沿いに家がある。北方謙三の作品は長編で中には泣ける場面もあり好きだ。図書館にはある？あるのか！うれしい。避難所ではやることがない。

被災した家から本を持ってくるのは大変だし、今は置くところもない。本は好きだけど、図書館はこれまであまり行ったことなかった。来月入居予定の仮設住宅は図書館の近くなので、今度行ってみようかな。（80代男性）

今日はこれを借りていって読もう。最近寝られんから。（70代女性）

仮設住宅やし、本をたくさん集めることはできんかな。これからは毎月いろんな本を借りて読んでみる。（70代女性）

『気持ちの整理』ができる人できない人』という本が良かった。自分の気持ちをどこにやればいいのかわからない時がある。

特に仮設で一人過ごしているときは色んな良くないことを考えてしまう。（70代女性）



2024年9月の豪雨災害により浸水した町野図書館

3月

(花の本を前回リクエストした方)
家で花をたくさん育てていたの。震災後、家が潰れて2年も触らなくなったから、花の名前も忘れてきてしまった。暇を見つけてこの本で勉強しないとだね。(70代女性)

(「色えんぴつで動物を描こう」を借りて)
同級生が長野に引っ越してしまっさみしい。地震前に移住するなら長野がいいなと話していたら家が全壊し、本当に長野へ行ってしまった。復興したら戻ると言っていたけどいつになるかな。
この本を見て、絵葉書を書いて送ってあげたいな。(60代女性)

今日は風が強いね。地震で海岸が隆起する前、冬は波が高くて沿岸道路に波がかかる時もあったんだけどね。今は海が遠くへ行ってしまったようだ。(70代女性)
夫と2人で読んだ。これおもしろいつて貸してあげたのよ。(70代女性)



雪が降る中の本の積み込み

4月

下重咲子さんの本！前『徹子の部屋』に出ていておもしろかったのよ。
ひまわりを植えたいと思っていたところなの。
野菜もいけどお花を育てるのもいいよね。(70代女性、ひまわりの絵本を手を取って)
絵本スイミー大好き！これ見ただけで今日来てよかった！(70代女性)

この手さげを見ると図書館に行かないかんと思う。(70代女性)

築150年の大切なお家を壊したくないんだけど、公費解体の申請を最近したの。

去年からいくつも工務店に見てもらったけど、直すのは難しいみたい。田んぼの薬を置く納屋くらいは自分たちでつくってみたいと思って本借りの。(DIYの本を借りた50代女性)

たくさん読みたい本を買って本棚にしまっていたけれど

本棚ごと土砂でなくなっちゃったわ。今は借りるのが良いね。(50代男性)



新1年生が立ち寄ってくれました

6月

家では一人やし、足が悪くなつてから畑は辞めて暇なんや。いつもニュースで見る出来事や輪島のこと、地震、歴史などを本で勉強している。今日は折り紙の本を手にとつて

久しぶりに、避難所でたくさんお花を折っていたこと思い出した。久しぶりに家で作つてみる。(70代男性)

この集会所は、今年3月まで大水に遭つた方が住んでいた。ようやく集会所として皆が集まれるようになってきたけど、今のところ支援で来てくれるのは移動図書館くらいかな。ここは、住んでいる人も少ない集落だし。

これまでは街中に住んでいたから図書館は近かつたけど、仕事をしていた時は畑もやっていて、忙しくてなかなか本を読むことができなかった。今は、仮設におつてもすることがないから、できるだけ外へ出るようにしている。

ここの仮設は最初にできたやろ？そのころはたくさんイベントが支援やつてくれたけど、最近は少なくなつてしまつたなあ。(80代女性)

お茶なんて家にいると誰も入れてくれんからうれしいわ。ここに来ればしゃべる人もいるし。(70代女性)

久しぶりに本を読む。本をわざわざ借りに行つたり、買つたりはしないけど、こうやつて図書館が来てくれたから足を運んでみました。久しぶりに本を借りたし、帰つて読むのが楽しみ。(60代女性)

近所の人が誘つてくれたから来てみた。本が好きで普段は娘に図書館から借りてきてもらつているけど、移動図書館は自分で選べていいね。

これもおもしろそう！読んだことがない本がたくさんだね。3冊に絞るの難しい。

前回は忙しくて借りに来られんかつた。だからこのひと月は本がなくてさみしかつたわ。

地震までは、仕事をしていたから忙しく本を読む時間がなかつたけど、今は時間ができたからね。

花の本を集めていたのが全部だめになつた。テレビを見ているだけだと頭もボーっとしてくるしね。

地震から長い間料理ができんかつたやろ？水もでんし、電気もない。今になつてもお惣菜が中心で、料理をする機会はいぶ減つてしまつたわ。料理本読んで少し始めてみようかな。(70代女性)

5月

最近、ボランティアさんも減つて集会所で集まることなくなつてたん。お話だけでもここに集まれたらいいね。(70代女性)

8月

間取りを描くための本をたくさん読んでイメージを膨らませているの。大きな家を建てることはしないし、実際に建てるかわからないけど、この本を見ているだけで前向きになって楽しいのよ。(70代女性、間取りの本を借りて)

いつも移動図書館に来てるけど、この前はじめて仮設図書館にも行ってきたのよ。(70代女性)

明日、孫たちがお盆で来るのよ。金沢市からキャンピングカーを借りてきて寝泊りするみたい。

ご飯食べる場所も仮設だと狭いから集会所を借りてみんなでご飯を食べるの。(70代女性)

お盆に来たひ孫には『なんでお家小っちゃくなつたの?』って言われてね。子どもたちはみな県内にいるからお盆や正月には家に来て集まっているの。町で暮らす小さい子は大きな家がうれしくて走り回っておったんやけどね。(80代女性)

地震前から本が好きだった。納屋にたくさんあった本は解体業者にとっておいてほしいと伝えていたけど、気づいたらすべて処分されてしまっていた。大切な思い出の本もあってショックだった。だから、今は毎月移動図書館を楽しみにしているの。毎月借りた本は2回読むのよ。今日も本を借りたからしばらく心が持つわ。(80代女性)

昨年7月に移動図書館活動が来てくれるようになって、もう1年もたつんやね。

私は10月くらいまで輪島市外に避難しとつたから知らんかったけど、

ここに戻ってきてからはほとんど皆勤賞やね!(70代女性)

今日は35度もあって、暑うて外にも出られん。けど、家におっても寝るかテレビ見るかだけ。外出るきっかけがあるのはありがたいね。(70代女性)

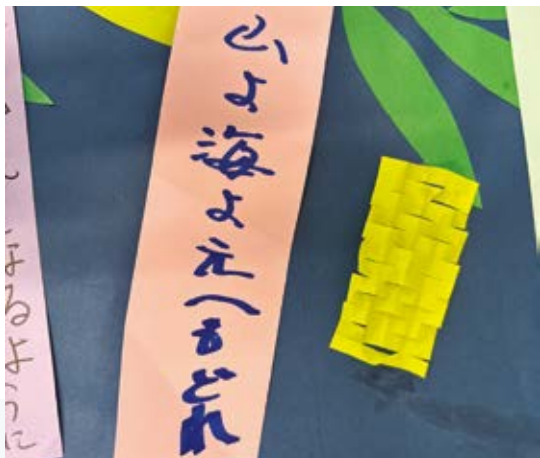
今日は特に暑いねえ。最近日は日中畑に行かれんから朝5時から水やり行ったりしとる。カボチャとかスイカは全部しおれてダメになってしまったわ。(70代女性)

孫からよくカブトムシやらいろんな虫を折り紙で折ってもらっていたんよ。

お家で折り紙でもしてみようかな。でも簡単なやつがいいわ。

セミやらとんぼやら蝶々やらきれいやね。一緒につくってくれてありがとうね。

(折り紙と一緒につくったおばあちゃん)



七夕飾りに折りをこめて

7月

9月

次回できれば、新見南吉さんの本を少し持ってきていただけませんか？
いつも和やかな雰囲気の中で過ごさせていただきありがとうございます。

亡くなった夫が山崎豊子の本をよく読んでいて『沈まぬ太陽』だっけ？好きだった
ことを覚えてるから久しぶりに読んでみたいの。①代女性、山崎豊子『沈まぬ太陽』をリクエスト

おうちが残った人も壊れた人も辛かったのよ。見た光景や思い出は平等だって。
家が残ったから大変じゃなかったわけじゃないでしょう!? (仮設住宅の方)

昨日で奥能登豪雨から1年たったんやな。自宅は何とか浸水を免れたけど、
公民館や仮設住宅は浸水した。地震や水害があっても何とか自宅で住めている
自分は目の前の仮設の方たちに申し訳ないと孤独を感じる。気持ちがしんどい。

今日、新聞で災害公営住宅について載っていたね。2028年に入居だって。
その時まで生きていないかもしれないよね。

10月

家は公費解体して、荷物置くところが無いから畑を潰して物置を建てることにした。
代わりに、仮設にプランターを置いて野菜を育ててみるの。

震災後3カ月程は二次避難でホテルに過ごした。父ちゃんが死んでから息子が
気にかけてくれるようになって二次避難の時は毎週家に招いてくれた。こんなこと
する子だとは知らなかったよ。近所のよくしゃべる人が苦手で一緒に二次避難所で
生活するのは心配だったけど、人の悪口を言わない方で私のことをすごく
気にかけてくれた。ストレスでご飯を食べられないようになって痩せていった時も、
食事の時間は一緒に行こうと誘ってくれたの。いろいろな人の優しさに
触れることができた。集会所でいろいろなイベントはあるけど、
移動図書館しか来ないね。(時代物の本を探していた80代女性)

今日もお花の本を借りようかな。仮設に移ってからは何も育ててないけど、
家を壊してさら地になったところで作れるかもしれないね。(70代女性)



バラの折り方を教える図書館員



利用者さんが近くで採ったアケビのおすそ分け

11月

いつもチラシを見てずっと来たいと思っていたの。スूपのだしの本に、切り干し大根でダシが取れるって!?面白そう。(初めて参加した50代女性)

ここに家を建てるらしいが、この町はどうなっていくんだろうね。(70代男性)

この町は地震・水害併せて8割が全壊。知り合いの息子はこれから

今年も毛糸の帽子つくろうかな。去年は6個もつくったのよ。
たくさんつくったら欲しい人あげるの。(70代女性)

この地区は寺が7件あったのが6件は境内を解体した。庫裡くらだけ残っている寺はある。法事をする時は地域の集会所でやっている。

寒くなってきて、70代やけど五十肩いそひだわ。やっぱり料理の本、編み物の本、病気の本をいつも選ぶね。(70代女性)

12月

こちら辺もだいが家の解体が進んできたね。うちも解体したし、兄弟の家もみんな解体だよ。さみしいね。(70代女性)

年末年始は時間があるから、いつもと違うような本を読んでみようかな。(女性)

この時期は切り干し大根、干し芋、銀杏などたくさん保存食をつくるね。海苔を干す長いザルはこの地域にしかないものかもね。みんな手編みで先祖代々引き継がれてきたもの。(女性)

先月は災害ボランティアセンターにつないでくれてありがとうね。

仮設から元の家への引っ越しが済んで年内には広い家で過ごせそうだよ。やっと落ち着いた。(女性)

今年1年、移動図書館があったから仮設でも退屈しませんでした。ありがとう。
私は出歩くより、本を読むのが好きでね。(80代女性)



輪島市図書館の引っ越しに駆け付けた、ボランティアのみなさん



移動図書館車のイメージパネルを見る利用者さん

今年度もたくさんの個人・団体の皆さまにご支援をいただきました。
この場をお借りして御礼申し上げます。

決算報告（2025年1月1日～12月31日）

	項目	金額
収益	指定正味財産からの受取寄附金振替額 ¹	38,024,609円
	令和6年能登半島地震へのご寄附(2025年)	3,232,047円
費用	費用合計	33,085,982円
	令和6年能登半島地震支援寄附金預金残高	8,170,674円 ²

1:活動が複数年にまたがるため、能登半島地震への募金は、すべて指定正味財産としてお受けし、必要な活動費用を指定正味財産から一般正味財産へ振り替えています

2:2026年以降の事業費に充当します

仮設住宅・公民館での移動図書館

「ほんねんてブックカフェ」の活動

移動図書館活動を共に行う
図書館職員や利用者の方々の声を
紹介しています。



動画はこちらから
ご覧いただけます



シャンティ国際ボランティア会とは

1981年に設立したアジアを中心に活動する、日本生まれのNGOです。子どもたちへの本を通じた教育文化支援、日本国内外の災害や紛争後の緊急人道支援を行っています。

シャンティ国際ボランティア会は特定公益増進法人の認定を受けています。国内緊急人道支援活動へのご寄付は、税制上の優遇措置(寄付金控除)が受けられます。詳しくは弊社またはお近くの税務署か税理士にご相談ください。

令和6年能登半島地震 | 2025年度活動報告書

2026年5月1日発行

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3F

Tel 03-5360-1233 Fax 03-5360-1220

E-mail shinsai@sva.or.jp | URL: <https://sva.or.jp>

デザイン: 保田卓也 写真提供: 川畑嘉文